

# 令和5年度第1回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会会議録要旨

日 時 令和5年8月10日（木）

午後2時～午後4時

場 所 あま市役所 2階D会議室

## 1. 出席者等

委 員 10名

事務局 8名

## 2 副市長の就任に伴う会長の交代について

### ○事務局

- ・昨年度は副市長が不在のため、6号委員（市職員）及び会長として当時の企画財政部長が任命されていたが、副市長の就任により6号委員及び会長職を伊藤副市長に交代する案を提案する。

### ○委員

- ・異議なし

## 3. 会長あいさつ

- ・4月より副市長に就任した。
- ・市を取り巻く環境が目まぐるしく変わってきている。
- ・社会の変化に対応しながら、人口減少抑制を目指して参りたい。

## 4. 議題

### （1）第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

#### ○座長

- ・事務局から資料の説明をお願いする。

#### ○事務局

（資料1に基づき説明）

- ・第二期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、令和3年度からの5ヵ年計画として、令和3年3月に策定された。
- ・今回は計画策定から2年が経過した時点での実績値について報告する。
- ・4つの基本目標と関連するKPIについて説明。
- ・各目標は、コロナ禍において数値が伸び悩んだ面もあるが、徐々に好転している項目が多く見受けられ、比較的順調に進捗しているのではないかと評価できる。
- ・今後もこの戦略に基づき着実に事業を実施することで、引き続き人口減少を抑える施策の推進を図って参りたい。

○座長

- ・特に人口減少対策ということに着目して議論していただきたい。

○委員

- ・離婚率を下げる、婚姻継続率を上げられないかと思う。
- ・離婚するということは、子どもさんがいる場合はシングル家庭が増えるということになり、いわゆる子どもの貧困や教育の格差にも繋がっていく。
- ・婚姻率を市の施策として何かというのは、すごく難しいと思う。
- ・婚姻継続率の方に着目して継続させていく。そうすれば、2人目、3人目の子どもという可能性もあるかもしれない。シングル家庭を減らすということは、これから結構大事なことはないかと、個人的には思う。

○委員

- ・シングルになると、都市のほうが便利であったりする。
- ・シングルであっても、子育てしやすい環境を画期的に整えない限り、流入は難しいかなと思う。
- ・流山市は子育て支援として、保育園に預けに行く時間を短縮するために、駅で子どもを預かって、保育園に送り届けるというサービスをやってすごく人口が増えたという話を聞いた。
- ・あま市は自然豊かで、コンクリートジャングルの中で育てるよりもいいという面もある。それを上手に発信していくことも必要。

○委員

- ・あま市には大学がないので、大体外へ出ていく。
- ・いずれあま市に戻ってきて、ここに根付いて、まちを盛り上げていくことを目指して、戦略を考えていかなければならないと思う。

○座長

- ・多分、まち・ひと・しごと創生の本質だと思う。
- ・あま市に暮らしたいと思わせるような魅力をどうやって作るかということの中で、魅力のある仕事だったり、生活環境だったり、また、そういう人がいるということが全部相乗効果になる。

○委員

- ・コロナ禍の前までは東京・大阪の大企業に就職してという方々もいたと思うが、コロナが起きて、リモート勤務というところも出てきている。
- ・自分たちが結婚して住むまちが、魅力のあるところで、できるだけ支出を抑えられて、子どもを育てやすいまちに住みたいという人が多いと思うので、そういうもの

を呼び水にしながらやっていくというケースもあるのかなと思う。

- ・最近では、スタートアップ企業をどんどん生み出していこうという流れ。
- ・いろいろ優遇も含めて、起業家達を積極的に受け入れてあげることによって、少しずつでも若い世代の人たちが集まって、人口の流入が増えていくのでは。

#### ○会長

- ・あま市も来年度以降、起業家を育てる取り組みを実施する。
- ・商工会や各種団体と連携を取りながら進めていきたい。

#### ○委員

- ・資料1の効果検証のところで事務局からの説明があったが、教育相談センターの不登校の割合が△がついている。
- ・これは毎年人が変わってくるということもあるし、文部科学省自体が性急な学校復帰を目指すのではなく、将来的な社会的自立を目指した支援をなさいというふうに言っている。
- ・市の教育委員会としても、すぐに学校に行けるような、不登校をなくすような指導の仕方はしていない。
- ・この数値を指標とするのであれば、1回不登校になるとなかなか戻らないというのが現状であると思うので、長い目で見ていただきたい。

#### ○委員

- ・不登校からすぐに学校に戻って、この数値を上げるということに終始しても解決にはならないと思う。
- ・最近では、同じ体験を持つ親子を集めて、悩んでいる親御さんたちの居場所になりたいというような団体を作られたりしている。
- ・未来塾を卒業した若者が、市民活動団体を作って活躍している。いろいろな場所で大人がサポートして、チャレンジできる環境があることが若者にとっては魅力なのではないか。
- ・日本全国人口減少なので、来てもらおうと思っても取り合いになるだけ。
- ・シニアの方が地域のコミュニティで活躍したり、地域リーダーとして活躍したり、そういったシニアの方と一緒に何かやろうという世代間交流の団体も少しずつ増えてきている。
- ・役割と居場所のあるまちづくりが。居場所があれば出ていかない。さらに役割があれば、その役割を持って居続けようとするのではないか。
- ・そこにいる人たちが生き生きと豊かに暮らせるというのがいいのかなというふうに感じている。

#### ○委員

- ・3世代で暮らすと、両親共仕事に出られる。3世代が暮らせるような住宅を作った

ときに補助金を出せば、自分の住んでいるまちはいいところだと思ってくれるのでは。

○委員

- ・結婚したくない人を結婚させるとか、子どもを産みたくない人に子どもを産ませるのはすごく難しい。
- ・結婚したいけどできない人を応援する。子どもを産みたいけど産めない人を支援するほうがよい。
- ・例えば、市民病院に不妊治療科と産婦人科を作り、その不妊治療に関して、あま市の住民であれば支援をするなど。
- ・それであま市が有名になれば、外から入ってくる方もたくさんいらっしゃるようになるのでは。

(2) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について

○座長

- ・事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局

(資料2-1から2-4に基づき説明)

- ・この交付金は、新型コロナウイルスの感染拡大の防止及び感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活の支援を通じた地方創生に資する事業の実施に対して交付されるもので、コロナが始まった令和2年度より交付が始まった。
- ・資料の2-1と2-2は、令和3年度実施事業に対するもの。また、資料2-3と2-4は、令和4年度実施事業に対するものとなっている。
- ・資料2-1と2-3は市単独事業として交付金を活用した事業となっており、2-2と2-4は、国庫補助を受けた事業のうち、市の負担分について活用が認められたものとなっている。
- ・各施設の感染対策やアマノギフトなど幅広い分野で活用させていただいたので、全て列挙している。
- ・外部有識者会議等で意見をいただいた後に公表することとしているので、ご意見を頂きたい。

○座長

- ・事前に目を通した感じでは、外れた使い方をしているものは見当たらなかったが、これはどうという質問等がございましたら、ご意見を頂きたい。

○委員

- ・ワクチン接種の時に、オンラインで接種の受付などされたと思うが、その支援対策はこの事業の中には入っていないのか。

○事務局

- ・そちらの事業は全額国の補助金を使っているので、地方創生臨時交付金は充てていない。

○委員

- ・高齢者の方が、オンラインで申し込みができないという声を非常にたくさん聞いた。
- ・次にこういったことがあった場合は、そういった支援対策の費用が取れるといいと思う。

○座長

- ・ほかにも何かあれば、今月中に事務局へご連絡をお願いしたい。